

2008年7月1日
22号

かけはし

水戸総合病院広報誌

発行所 (株)日立製作所水戸総合病院
〒312-0057
ひたちなか市石川町20番1
TEL 029(272)5111
発行人 仲村 稔
編集 広報委員会
URL:<http://www.hitachi.co.jp/hospital/mito/>

【水戸総合病院理念】

説明責任を基本とした最新の技術と最良のサービスの提供により患者さまの満足される医療を遂行する

【水戸総合病院基本方針】

「地域の皆様の信頼と満足が私たちの生きがいです」のもとに、①急性期医療に重点を置いた地域完結型医療の実施、②最新の医療技術の確立、③説明責任を実施することによる最良のサービスの遂行を実践する



院長挨拶

院長 永井庸次

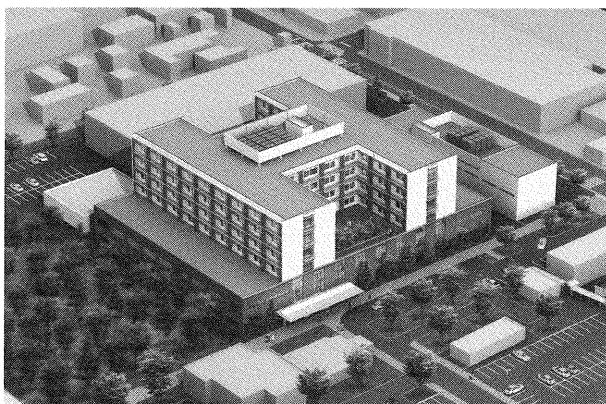
梅雨に入ったばかりで、じめじめした雨の日と快晴の日、さらに夏日と4月を思わせる寒い日と交互に続き、皆様方には体調のコントロールに日夜気を使われていることお察ししております。

皆様方もマスコミ等からの情報をお聞き及びかと思いますが、来る5月16日本社古川社長名で、「日立製作所水戸総合病院における新病院建屋の建設について」というプレス発表がありました。それに基づいて新聞各社は報道したわけでありますが、中には本社が発表した以外の私どもも責任が取れない内容も含まれており、若干困惑しているところもあります。公表した内容の概略は、この地域における医療の高度化と「地域完結型病院」としての診療機能強化を図るために、本年12月に着工を開始し、2010年4月に新病院の建屋の竣工・オープン、というものです。詳細は、現在地の北側の駐車場用地に地上6階の免震構造の建屋を新設、病床数を現在の215床から288床に増床、リハビリ専門の回復期リハ病棟50床新設の他、重症集中治療室増床を含めた救急診療・災害診療の充実、放射線治療施設の新規導入によるがん診療の充実、産婦人科の再開、というもので、個室も20室から106室へ増室し、24時間保育の充実など、患者さま・職員の快適性を視野に入れた、「地域を護る病院」としてリニューアルいたします。

本年度は、メタボリック症候群対策を主眼とした特定健診・

特定保健指導の導入、後期高齢者医療制度導入に係る諸問題、死因究明に係る医療安全調査委員会設置に関する第三次試案の国会上程に伴う諸問題、さらには常陸太田保健所へのひたちなか保健所支所化構想など、患者の皆様方はもちろんのこと、私たち医療者やひたちなか市にとっても大きな問題が目白押です。その意味でも、当病院の2010年新築リニューアルを契機に、医療崩壊・医師不足の時代、全国的にも医師数の不足しているこの地域で、私たちと皆様方が、ひたちなか市、医師会を含めて、一致団結してこれらの案件を解決していくことが、「地域の医療を護る」という意味でも喫緊の課題であると思います。

今後とも建屋の完成までは色々あると思います。しかし、当院にとりまして、皆様方のご支援に勝るご支援はありませんので、今まで以上のご支援、ご鞭撻を賜りますことをお願いいたします。



新病院鳥瞰パース

8月より日立メディコ社製 最新型1.5T MRIを導入

放射線技術科 柳田 邦彦

当院では、2008年8月より日立メディコ社製の最新型超伝導方式1.5T（テスラ）MRI（核磁気共鳴断層撮影装置）“ECHELON Vega”（エシャロン ベガ）を導入いたします。

従来のMRIは動きに弱く、わずかな体動や血管の拍動による画像のボケが問題となっていました。新MRIでは、多少の動きを自動的に補正し、良好な画像が得られます。これにより、痛みなどの症状で動いてしまう患者さまにも安定した画像が提供でき、救急医療においても質の高い診断に寄与することが期待されます。

また、同時に日立メディコ社製の永久磁石方式オープン型0.3T MRI “AIRIS Elite”（エアリス エリート）も稼動いたします。超伝導方式のMRIでは、トンネル状の磁石の中に全身を入れて検査を行うので、閉所が苦手な患者さまにはとても辛い検査となっていました。しかし、永久磁石

方式では、超伝導方式に比べ装置構造的に開放性に優れており閉塞感が軽減されます。さらに、開放的な広い寝台を利用し、手や足など体の端にある部位も簡単に装置の中心（中心ほど良い画像が得られる）に合わせて検査ができます。

今後、検査部位や患者さまの状態に合わせて2台のMRIが稼動いたします。

尚、脳ドックは、超伝導方式1.5T MRIで検査を行います。脳ドック希望の方は、総合健診センター（フリーダイヤル 0120-55-6292 又は 029-276-7011）にお問い合わせ下さい。



口腔外科診療科について

歯科口腔外科 今井 英樹

『口腔外科（こうくうげか）』とはあまり聞き慣れない言葉かもしませんが、口腔・顎・顔面の様々な疾患を取り扱うところです。歯の抜歯、歯性感染症、口腔腫瘍・囊胞病変、顎関節症、口腔粘膜疾患、歯牙脱臼や顎骨骨折などの外傷、また最近ではデンタルインプラントを用いた歯牙欠損部の咬合再建など多岐にわたります。また、全身疾患有する有病者の治療や歯および顎に関連した疾患の治療、手術も行っています。具体的に扱っている疾患は以下のとおりです。

- 1) 歯牙疾患：抜歯、埋伏智歯（親不知）・過剰歯などの難抜歯、抜歯後治癒不全・後出血に対する処置など
- 2) 炎症疾患：口内炎、舌炎、歯肉膿瘍、歯槽膿瘍、骨炎、顎炎、骨髓炎、歯性上顎洞炎、蜂窩織炎など
- 3) 外傷：口腔内外裂傷、歯牙脱臼、歯槽骨骨折、顎骨骨折
- 4) 腫瘍：硬組織腫瘍（エナメル上皮腫・歯牙腫・セメント質腫など）、軟組織腫瘍（線維腫・乳頭腫・血管腫・脂肪腫など）、口腔悪性腫瘍※（舌癌、歯肉癌など）
- 5) 囊胞：歯根囊胞、含歯性囊胞、その他顎骨囊胞
- 6) 口腔粘膜疾患：白板症、扁平苔癬、舌小帯・上唇小帯強直症など
- 7) 骨疾患：外骨症（口蓋隆起・下顎隆起）
- 8) 顎関節疾患：顎関節症、顎関節脱臼、顎関節強直症など
- 9) 唾液腺疾患：唾石症、粘液囊胞、ガマ腫など
- 10) 歯牙欠損：歯牙移植術、デンタルインプラント※、骨造成手術、軟組織手術
- 11) 先天性疾患：顎変形症（外科的矯正術）など

※現在、口腔悪性腫瘍の手術においては東京医科歯科大学等へ紹介させていただいております。

※デンタルインプラントなどは保険外診療となります。

不明な点は歯科・歯科口腔外科までお問い合わせ下さい。

採用・退職医師の紹介

担当科	氏名	異動日
内科	常岡 秀和	採用(2008.2/1)
	太田 良雄	退職(2008.3/31)
	原田 匠一	退職(2008.3/31)
	渡辺 あづさ	退職(2008.3/31)
	木下 賢輔	採用(2008.4/1)
外科	黒川 友博	退職(2008.3/31)
	稻垣 勇紀	採用(2008.4/1)
整形外科	中島 佳子	退職(2008.3/31)
	大西 信三	採用(2008.4/1)
小児科	向田 壮一	退職(2008.3/31)
臨床研修医	木滝 真之	採用(2008.4/1)
	横田 直行	採用(2008.4/1)
	樋口 基明	採用(2008.4/1)
	高崎 千尋	採用(2008.4/1)
	尾崎 麻美	採用(2008.4/1)
	田村 起絵	採用(2008.4/1)
	佐藤 希美	採用(2008.4/1)
	西上 奈緒子	採用(2008.4/1)
	穂坂 翔	採用(2008.7/1)

水戸総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

2008年

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金			
	1	2	3	4	5				1	2		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4			
7	6	7	8	9	10	11	12	8	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13			
月	13	14	15	16	17	18	19	月	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	21		
	20	21	22	23	24	25	26		17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	19	20	
	27	28	29	30	31				24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	26	27	28	29	30	31	

■は休日

看護の日

看護局 後藤 幸子

5月9日（金）に「看護の心をみんなの心に」と題し、看護の日を開催致しました。「メタボリックシンドローム」をテーマとし、身体計測、自宅で測定できる腹囲測定テープの配布、栄養指導を実施しました。多数の方に参加して戴き、健康に関する意識の高さを感じました。その他にもAED、お子様へのプレゼント配布やバザーなどを行い、売上げを四川地震に募金させて戴きました。

入院患者さまには、担当看護師がメッセージを記入、全員に配布し、看護の日制定の由来などについてPRできました。

今後多くの患者さまや家族の方々に楽しんでいただけるイベントを企画していきたいと思います。



食中毒にご用心！

保健師 吉田 美子

夏場は食中毒が多い季節です。平成18年に国内で発生した食中毒事件数は、1,491件、患者数39,026名、死者数6名となりました。

WHO（世界保健機構）が発表した食品を安全にするための5つの鍵を守り健康で安全に過ごしましょう。

1. 「清潔に保つ」

正しい手洗い、まな板・包丁など調理器具の洗浄・消毒、防虫・防ソ（ネズミ駆除）で、細菌やウイルスなど微生物を食品に「つけない」。

2. 「生の食品と加熱済み食品とを分ける」

異なる食材を分けて取り扱う。

まな板・包丁は加熱済み（魚・肉用など）など用途別の区別を！

3. 「よく加熱する」

加熱が必要な食品はよく加熱しましょう。

調理済み食品もよく再加熱を！！

*腸管出血性大腸菌やサルモネラ、腸炎ビブリオなどによる細菌性食中毒の予防には、75℃、1分以上、ノロウイルスによる食中毒の予防には、85℃、1分以上の加熱をしましょう。



4. 「安全な温度に保つ」

調理済み食品を室温に2時間以上放置しない。

温かいものはあたたかい状態で。冷たいものは冷たい状態（冷却）で。

5. 「安全な水と原材料を使用する」

野菜や果物など生で食べる食材をよく洗いましょう。

消費期限をすぎたものは食べないようにしましょう。

上記に加え、睡眠や食事のバランスに注意し身を守りましょう。